

令和8年度 第1回豊田市博物館運営協議会 会議録

1 日 時 令和8年9月18日（火）午後2時00分～午後4時

2 開催場所 豊田市博物館 2階 会議室

3 出席者

〈委員〉 （敬称略・50音順）石田瑞奈、北村和宏、釘宮順子、鈴木康二、
新美 倫子、西本昌司、布垣直昭、平野 敬一、深谷 暢樹 以上9名
※原田一弥委員は欠席

〈事務局〉 田境部長、成瀬副部長、村田館長、上田副館長、井上副主幹、梅村担当長、
足立担当長、鶴田主査、中島主査

4 会議の経過

出席委員の報告（9名）を確認し、本会議が成立することを宣言

委嘱状交付、館長あいさつ、委員自己紹介、職員紹介の後、事務局から博物館の組織体制と運営協議会の概要について説明した。その後、委員の互選により、会長に布垣委員を選出、会長が西本委員を職務代理に指名した。会長あいさつ、その後、議事録確認者として、職務代理者の布垣委員を指名した。傍聴人なし。

5 議題

（1）令和7年度利用実績について

- ・資料3により令和7年度の豊田市博物館観覧者数、施設利用者数、事業実績などについて事務局から説明した。

【委員意見】

（委員）

- ・えんにち空間では市役所の各部署による展示が行われているが、こうした展示はどのような経緯で実施されることになったのか。非常に良い取組であり、他自治体にとっても参考となる事例だと思うので、今後も継続してほしい。

（事務局）

- ・市役所にはさまざまな部署があるが、業務成果を市民へ発信する機会が十分でないという課題がある。そのため、情報発信の手法の一つとして活用しており、各部署から展示希望の申し出がある場合と、企画展に関連した展示を検討する中で博物館から働きかける場合とがある。

（委員）

- ・自主活動グループは、個人パートナーが主体となって話し合いながら形成したものなのか。こうした市民活動は市役所南庁舎などでも発信されているが、博物館と連携しながら双方で発信できるとよい。

（事務局）

- ・個人のとはよくパートナーについては、1年目は5つの基本グループで活動していたが、

2 年目からは自発的な活動が生まれてきた。今後もそうした活動を支援しながら進めていきたい。

(委員)

- ・寄贈リストの中に学校関係の資料があるが、どのような経緯で収集に至ったのか。学校では独自の判断で歴史的に貴重な資料が廃棄される場合があるため、一度調査してみてはどうか。

(事務局)

- ・統廃合等により学校が閉校となる際には、教育委員会から資料保存について声掛けをいただいている。その機会を活用し、学校に残る貴重な資料の収集を進めたいと考える。

(委員)

- ・挙母祭り関連の資料は神明町が持参して寄贈しているのか。保存会に働きかけて、挙母祭り全体として、ぜひ今後も保存をして欲しい。

(事務局)

- ・保存会から毎年寄贈を受けている。今後も継続して保存をしていく。

(委員)

- ・豊田市の公文書管理センターと博物館が連携し、資料保存を進めてほしい。公文書管理センターでは保存年限を迎えると廃棄される資料もある。かつては市史編さん室でも取り組まれていたが、現在は解散しているため、ぜひ検討してほしい。

(事務局)

- ・作成中のコレクションマネジメントの中で検討したい。

(委員)

- ・利用実績で 4～6 月の観覧者数は企画展よりも常設展の方が多くなっている。コレクション展を常設展として扱っていることが要因だと思うが、内容としては企画展に近く、やや違和感がある。また、常設展と企画展の観覧者数は延べ人数として重複計上されていると思われるが、その考え方を伺いたい。

(事務局)

- ・コレクション展は、より多くの方に当館の所蔵資料を知っていただくことを目的に常設展料金を適用しているため、常設展として計上している。また、観覧者数については、常設展と企画展をそれぞれ独立した事業として扱っているため、当館に限らず他館でも同様の集計方法が採用されている。

(委員)

- ・近年、収蔵資料の増加により、収蔵スペースの確保や資料の処分が課題になっていると聞く。新しい博物館ではあるが、今後の収蔵計画について十分に検討してほしい。また、エジプト展は非常に多くの来館者を集めたが、目標来館者数はどのように設定しているのか。

(事務局)

- ・当館の収集対象は非常に幅広いため、コレクションマネジメントの作成を検討しており、指針に基づき収集等を進めていく方向である。目標来館者数は主として過去の実績を基に設定しているが、当館は実績が少ないため実態と差が生じる場合もある。

(委員)

- ・モネ展とエジプト展では、周辺道路の混雑などを心配していたが、配慮していただいたおかげで地元からの苦情もなかった。感謝したい。

(委員)

- ・学校の収集資料に関連して、ボーリング資料も加えてほしい。ボーリング標本は各学校で所有していることがあるが、肝心な位置図や地質調査図などが消失していることが多い。そうした図面をコピーでも構わないので博物館で保管いただけると、授業に役立てることができる。

(委員)

- ・ボーリング資料の件は集めるだけでなく、地質資料を見て扱える学芸員を配置すべき。
- ・展覧会 4 回、資料収集、ボランティア活動のマネジメントなど多岐に渡る業務を学芸員が担っているが、展覧会等で学芸員はどのような役割を担っているのか。

(事務局)

- ・歴史文化と自然科学系で幅広い展覧会を開催している。1 年度に開催する 4 回の展覧会のうちで自主展を 2 回、巡回展 2 回とすることで、学芸員の負担分散を意識している。パートナー活動についても、学芸員とパートナーが並走して活動できるようできるだけ自主的な活動に移行するように意識している。

(委員)

- ・多くの事業を実施して来館者数を確保することは重要だが、それでは学芸員が疲弊してしまうので留意して欲しい。大型巡回展にあわせてオリジナル企画を作り、それを館の財産にするなどの取組をしている博物館や、また、分析などはボランティアが行い、それらを基に学芸員が論文発表できていくような仕組みを持つ博物館もあるので、今後の参考になると思う。

(委員)

- ・観覧者数だけが重要ではない。市として展覧会の開催目的が明確であれば、例え観覧者数が少なくても説明に困らないと思うし評価に値する。
- ・収蔵庫に余裕があるうちに、また、資料の経緯が分かる人がいるうちに収蔵計画を立案すべきと思う。

(委員)

- ・資料収集の際にはリストが重要になるので、資料名等はできるだけ判別のしやすい名称であるべきと考える。

(事務局)

- ・巡回展でも虫展のように豊田市ならではの要素を入れているものもあり、今後、様々な方向性を検討したい。また、資料の収集は、市美術館の場合は徹底的な調査をして入手の理由から資料名称等協議して決めているが、当館はかなり幅広い範囲で資料の収集をしている。そのため、入手した経緯等が分からなくなりやすくなっているのが現状。除籍や処分等を行う場合も説明責任を果たす必要もあることから、コレクションマネジメントについて現在検討中である。本日頂いた意見を参考にさせていただく。

(2) 令和8年度展覧会開催状況

- ・資料4により、令和8年度開催の展覧会について、実績報告および今後の予定について説明した。

【委員意見】

(委員)

- ・「虫展」における科学体験館や自然観察の森との相互連携は良い取組だと思うが、実際の施設間の回遊状況はどうか。

(事務局)

- ・連携企画は令和7年度の宇宙展から実施しており、令和7年度は科学体験館の来館者数が1～2割程度増加した。今年度は虫展でのスタンプラリー参加者が2,000人を超えており、それぞれの施設で実施する連携企画への参加者数も延べ4万人を超えている。相乗効果を生み出すことができたと考えている。

(3) その他

特になし

以上で、本日の議事をすべて終了する。

6 事務局から連絡

次回の運営協議会は、2月か3月ごろに開催予定

7 展覧会視察

各自で観覧